

事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)		
LBT プロジェクト日本チーム(代表者名: 山下 梓)		
2. 研究または活動のテーマ(課題名)		
レズビアン、バイセクシュアル女性、トランスジェンダーの人々(LBT)の性的指向、性別自認、性別表現を理由とした暴力の経験に関するドキュメンテーション		
3. 助成額		
¥410,000 円		
4. 実施期間		
2013 年 7 月 ~ 2014 年 6 月(8 月)		
5. 実施状況		
2013 年	7 月 25 日	報告書の構成・活用に関する Skype 会議 助成金採択を受け、IGLHRC と打合せを開き、この時点で持っていた 5 カ国に関する報告書原稿(英語版)を見直し、編集し直すこと、2014 年 5 月発行に向けたスケジュールを確認した。
	8 月 1 日	報告書原稿(英語版)のための再集計・分析と執筆開始 編集作業は、翌年 4 月 25 日まで継続した。
	10 月 12 日	セクシュアルマイノリティと医療・福祉・教育を考える全国大会(於:大阪)の分科会「LBT の人たちの暴力に関する経験~IGLHRC とのアジア地域調査プロジェクトからみえたもの」で調査の中間まとめ報告と、分析・提言に向けた参加者との意見交換
	10 月 26 日	セクシュアルマイノリティ支援第 2 回全国会議の全体会「被災が覆い隠す悩みと生活支援戦略」における「LBT と暴力経験に関する共同調査プロジェクトプレラウンチ」で調査の中間まとめ報告と、分析・提言に向けた参加者との意見交換
2014 年	4 月 23 日	報告書活用に関する Skype 会議 日本のメディア関係者の洗い出しと調査結果の活用方法について、遠藤まめたさんと打合せを行った。
	4 月 25 日	報告書原稿(英語版)確定・入稿、報告書原稿(日本語版)編集開始
	5 月 12 日	報告書(英語版)納品
	6 月 12 日	報告書(日本語版)進捗確認と報告書活用、WorldPride 2014 Human Rights Conference 分科会における発表に関する Skype 会議 標題のテーマについて、IGLHRC とフィリピンチームと打合せを行った。
	6 月 13 日	国連自由権規約日本政府審査に係る NGO レポート提出

LBT の人々の暴力の状況と政策充実の必要について、調査結果を盛り込み、NGO レポートを作成して国連に対し提出した。

6月 17日 報告書原稿(日本語版)入稿

報告書を活用した政策提言等に関する Skype 会議

6月 27日 WorldPride 2014 Human Rights Conference 分科会「アジアにおける LBT に対する暴力」で調査のまとめ報告

8月 29日 報告書(日本語版)納品予定、以後、関係者への発送

6. 事業成果と自己評価

報告書(英語版)“VIOLENCE: Through the Lens of Lesbians, Bisexual Women and Trans People in Asia”(別送)の日本に関する章をまとめ、2014年5月に公表することができた。このことにより、6月25日、Inter Press Service よりメディア取材の問い合わせがあった。調査のまとめを活用し、国連自由権規約に関する日本の政府報告にあわせて NGO レポートをとりまとめた。規約人権委員会は7月24日、日本政府に対し、性的指向・性別自認に基づく差別や効果的・適切な防止と救済措置等について勧告した。本事業は、調査結果の活用による社会変革をひとつのねらいとしており、社会変革には未だ至っていないが、活用して変革のきっかけとなる勧告を引き出すことができた。

本事業の柱である日本語版の報告書については、昨年7月の助成金採択を受け、IGLHRC と打合せた結果、当時持っていた5カ国に関する報告書原稿(英語版)を見直し、再集計とより詳細な分析を加えて編集し直すこととなったことから、作成のスケジュールが大幅にずれることとなった。信頼性のある報告書とするため、分析を深め原稿を確定させるまでにIGLHRCとSkypeを通じてやりとりを重ねた。必要なプロセスではあったが、このために原稿(英語)の確定が4月下旬になり、その後、日本語への翻訳にとりかかり、結果的には事業期間中の6月末日までに日本語の報告書を発行することができなかった。原稿(日本語)は6月中旬に業者へ入稿しており、8月下旬には発行予定である。

事業期間中、中間報告として、セクシュアルマイノリティに関する2つの全国会議で調査について発表した。これにより、読売新聞、毎日新聞等の主要紙から、報告書(日本語版)発行の折にはぜひ記事としてとり上げたいとの連絡があり、報告書を活用するための関係者の洗い出しとネットワーク充実を図ることができた。

また、発表後には、複数の暴力のサバイバー当事者や支援者から声をかけられ、「このような調査が実施されて嬉しい」「(性的指向・性別自認により辛い思いをしていたのは)自分だけかと思っていた」「報告書が発行されたあかつきには、自分の地域でも支援策や制度変革に活用していきたい」等のメッセージをいただいた。本事業は、暴力のサバイバーであるLBT当事者のエンパワメントも目的のひとつとしていたが、そのことを少しでも果たすことができた。

2014年5月、本プロジェクトチームを含む5カ国のアジア地域調査プロジェクトチームは、IGLHRC が草の根でセクシュアルマイノリティ支援の活動をする個人・団体に贈る「フェリパ・ジ・ソウザ賞」を受賞した。本助成を受けなければ調査報告をまとめることは極めて困難であったことから、本助成があったからこそ同賞を受賞できたといえる。フェリパ賞受賞により、調査実施者自身がエンパワメントされ、本事業の所期の目的を今後も維持し、LBT が暴力から保護・救済される社会の仕組みと意識形成を図っていききたいとのモチベーションにつながった。